

1. 実況上の着目点

① 四国の南と日本海中部には気圧の谷があって、西日本の太平洋側と東日本から北日本で1時間に10mm前後の降水を解析している。四国沖の海上では1時間に20mm以上の強い雨を解析している。

② 黄海には500hPa5460m付近で-33℃以下の寒気を伴った地上低気圧があって東進。黄海では午前中は発雷を検知していた。

③ 日本の東に前線を伴った低気圧があって、発達しながら北東進。前線や低気圧と千島の東の高気圧との間で気圧の傾きが

大きくなっており、全国的にやや強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の四国の南にある気圧の谷が東進し、3日朝には東海道沖に低気圧が発生し、4日にかけて日本の東へ進む。また、1項②のトラフが3日にかけて本州付近を通過し、対応して2日夜までに日本海で低気圧が発生して東北東進し、3日夜には東北地方に進んで不明瞭となる。上空寒気と低気圧に向かって流入する下層暖湿気や、日中の昇温の影響で大気の状態が非常に不安定となる。西日本と北日本では3日は、東日本では3～4日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項③の低気圧は日本の東を北北東進、3日夜には千島近海へ進む。前線や低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。南西諸島では2日は、東～北日本では4日にかけて、強風や高波に注意。北日本では風雪に注意。

③ 1項③の低気圧の影響で、北海道のオホーツク海側では3～4日にかけて降雪が強まり、大雪となる所がある。北海道では大雪による交通障害、着雪に注意。北日本から西日本にかけて積雪の多い所では、なだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

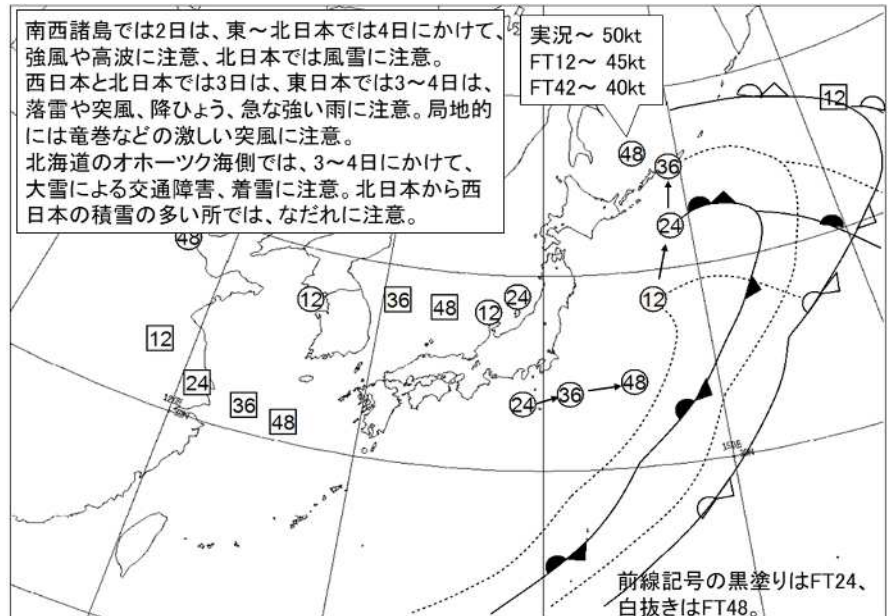
② 降雪量(18時からの24時間)：北海道20cm。

③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東5、伊豆諸島4、東海・九州南部・奄美・沖縄3m。

④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図